

## 学生大使 実施報告書

氏名：川崎李羽

学部・学科（コース）・学年：工学部・化学バイオ工学科・バイオ化学工学コース2年

派遣先大学：ラトビア大学

派遣期間：令和6年9月1日～9月14日

### 1 日本語教室での活動内容

ラトビア大学の日本語教室では、平日午後①16時10分～17時40分②18時～19時半の90分を2回行う形式で行った。日本人1人につき、現地の人1人または2人(3人の時もあった)を担当した。日本語教室は、教室の中と中庭に分かれて授業を行った。教室の中では、日本語を書くことを学びたい現地の人達が集まり、中庭では、主に日本語を話すことを学びたい現地の人達が集まった。

私は、中庭で活動することが多かったが、以前日本語教室に来ていた現地の人に来てくれていたり、日本語を話すこと、聞くことができる人が意外と多く来ていたので、その人々と話す際は、日本とラトビアのことを互いに話すことをしていた。私は、主に地元の特産物や地形について話をした。

日本語を教える時は、日本から持ってきた本や翻訳機を使って教えた。その際、本を使って教えると、絵や文字があるため、わかりやすく伝えることができたと感じた。また、ドラマのようなセリフや若者言葉を教えた際のラトビア人の反応は良かったように思える。

最終日の日本語教室では、現地の人日本の文化に触れることができる時間を作った。具体的には、日本のお菓子を食することやけん玉、だるま落とし、折り紙などで遊ぶことを行った。遊ぶことを取り入れることで楽しく日本の文化を感じてもらえたと考える。また、私は地元の特産物をプレゼントすることでも日本の文化に触れてもらえたと感じる。

### 2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室が平日の午後からであったため、休日や午前中は現地の人とも行動を共にしていた。例えば、ユールマラという海辺の町へ電車に乗って一緒に行ったり、宮殿まで車を運転して連れて行ってくれたこともあった。学生の子は、他の授業があるにも関わらず、案内しようとしてくれたため、中々できることではないことをしてくれてとても感謝している。少し遠い場所でも、割と連れて行ってくれるため、安心して行くことができた。電車の乗り方が日本と異なることも面白いと思った。さらに、ラトビアでは何が有名なのか教えてくれたり、お土産屋さんを案内してくれた。また、オペラの予約をしてくれてオペラ座まで一緒に行って鑑賞することもあった。他にも、日本語教室が終わった後は、毎回晩御飯と一緒に食べていた。LIDOというファミリーレストランのようなお店があり、店舗数も多く、ビュッフェ形式であったため、そのお店は何度も利用した。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

私は、日本のことや地元のことについて話をしたいと思っていたため、地元の特産物や地形のことなどをたくさん話すことができて良かったと感じる。また、ラトビアの有名なものを現地の人から聞いて、ラトビアのことを少しは知ることができたと思える。しかし、英語で話をする際に、自分自身の英語能力が低く、会話が詰まることがあり、悔しい思いをしたため、英語能力を上げていきたいと考える。

日本語を教える際、例えば、感情を教えてほしいと言われた時は、翻訳機が示す言葉だけではなく、自分自身が良く使う言葉を教えることで、本当の会話を伝えることができたと感じる。翻訳機を使うことで会話がスムーズになることがあるため、翻訳機を使うことも良いと思うが、自分自身の言葉で伝えることも大切だと感じた。また、あまり多くはなかったが、現地の人と行動できる時は、一緒に行動することを心がけた。

### 4 プログラムに参加した感想

今回のプログラムでは、ラトビアに派遣することが久しぶりということもあり、私たちがラトビア大学と山形大学の架け橋となることを聞いていた。また、初めての海外ということもあり、ラトビアに着くまで緊張していたが、ラトビアに着くと、以前の日本語教室に参加していた人々が来てくれていたことで、年齢関係なく学ぶことに積極的だと感じたり、現地の人々が温かく迎え入れてくれたため、嬉しく思った。このプログラムでは、日本に興味がある人々が来てくれることや、年齢が近いからこそ教えられる言葉を伝えることができることもあり、私のように初めての海外という人でも、普通の旅行では経験できないことができ、安心して行動することができた。そのため、このプログラムの重要性を再確認することができた。

ちなみに、私は数日間体調を崩し、熱が出たことにより他の人よりは交流をする機会が少なかったが、それでも、仲良くすることができて良かったと感じる。初めての海外で病院に行き、海外の薬をもらうことは中々できることではないと思うので、それも良い経験となった。ただし、ラトビアの病院は直ぐに行けるわけではないため、体調管理をすることが必要だと身をもって感じた。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

以前は、人と話をすることや関わりを持つことに積極的に行動することができていなかったことがあったが、今回の経験から、人と関わりを持つことは大切なのだと思い直すことができたため、積極的に行動することを心がけていきたいと思う。また、元々海外に行きたいと思っていたことが実際に海外に行くことで、もっと色々な国を見てみたい行ってみたいと思うことに繋がったため、たくさんの国に行き、様々なことを経験していきたいと思う。さらに、自分自身の英語能力が低いと感じたため、英語の勉強を真面目に取り組んでいきたい。

【学生大使 実施報告書】



日本語教室最終日の様子



現地学生と宮殿に行った時

【学生大使 実施報告書】



現地学生とユールマラという海辺の町に行った時



日本人全員と現地学生でオペラを見に行った時